

システムリスク管理・AIガバナンス

オペレーショナル・レジリエンス

金融機関を取り巻く環境の急速な変化によってリスクは複雑化する一方であり、事故や障害の未然防止、特定のリスク事象を想定したBCPだけでは重要な業務の提供を継続できないおそれがあります。当社グループでは、未然防止策を尽くしてもなお業務中断は必ず起こるという前提に立ち、オペレーショナル・レジリエンス(業務の強靭性・復旧力)の確保に取り組んでいます。具体的には、地震や台風などの広域自然災害、大規模システム障害などに備えた重要業務継続体制の強化と実効性向上に向けた取組みを進めています。

なかでも、サイバーセキュリティはグループ経営上の重要課題であると認識しており、中期経営計画期間におけるデジタル戦略の一環として、オペレーショナル・レジリエンスの確保に必要な、技術的対策やガバナンスの強化も推進しています。具体的には、グループ各社における経営層向けのサイバーセキュリティ訓練実施、AIなどの先進技術を活用した技術的対策の推進や日々のセキュリティ監視・運用の強化、不正取引対策、グループ各社におけるサイバースリスク水準に応じた管理フレームワークの導入などに取り組んでいます。

大和証券グループのAIガバナンス指針

AIは、データバイアス(学習データに偏りやバイアスがある場合、その結果にも影響を及ぼす可能性)のように、意図せず公平性や安全性を毀損してしまう特有のリスクを内包しています。そのため、AIに関する原則・指針などを策定する動きが国際的に活発になってきており、日本においても、「AI事業者ガイドライン(経済産業省、総務省)」、「AIセーフティに関する評価観点ガイド(AIセーフティ・インスティテュート)」の策定や、「AIディスカッションペーパー(金融庁)」が公表されるなど、AIに関する指針やガイドラインの策定・検討が進んでいます。

大和証券グループは、AIを幅広く活用する企業として、またお客様の大切な資産をお預かりする企業として、証券業界で初めて、AI倫理についてグループ全体に適用する指針、「大和証券グループ AIガバナンス指針」を2023年6月に策定しました。指針は前文と7つの条文から成り、AIを活用するうえで遵守すべき事項を定めており、2024年9月には「AI事業者ガイドライン」の公表を受けて、指針の改訂を行っています。グループ各社において、AI活用における疑義や違反事例などが生じた場合には、同時に設置した「グループAIガバ

ナンス委員会」で速やかに報告などを行うことも定め、グループ全体でAIの開発・活用を適切に管理する態勢を整備しています。

また、大和総研では「大和証券グループ AIガバナンス指針」を基本としつつ、より開発・運用時におけるAI倫理を重視した「大和総研 AI倫理指針」を策定し、あわせて指針に則った活動を担保する「AI倫理委員会」を設置しています。

大和証券グループがすべてのステークホルダーから信頼され、選ばれるパートナーになり、当社グループが提供するサービスを安心してご利用いただけるよう今後とも尽力していきます。

大和証券グループ AIガバナンス指針

大和証券グループは、環境・人権・教育・経済成長・技術革新等の社会課題を解決し、社会・経済の持続的発展へ貢献することを使命としています。これを果たすため、先端テクノロジー、特にAIの活用は必要不可欠なものとなっているところ、AIが社会・経済全体に与える影響は今後ますます拡大することが予想される一方で、AI技術には発展途上の面もあります。

このような状況に鑑み、大和証券グループは、AIの研究・開発、AIを利用した予測・分析、AIを活用したサービスの提供等、AIを幅広く活用する企業として、社員一人一人が遵守すべき「大和証券グループ AIガバナンス指針」を策定いたしました。

大和証券グループが全てのステークホルダーから信頼され、選ばれるパートナーになり、大和証券グループが提供するサービスを安心してご利用いただけるよう今後とも尽力してまいります。

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1. AIによる社会・経済への貢献 | 5. 法令遵守とプライバシー保護 |
| 2. 人間中心のAIの提供 | 6. セキュリティとAI監視 |
| 3. AIの透明性と説明責任 | 7. AIのガバナンス態勢とリテラシーの向上 |
| 4. AIの適正利用と適正学習 | |



大和証券グループのAIガバナンス指針

https://www.daiwa-grp.jp/about/governance/ai_governance.html